

2022年度共同利用・共同研究拠点事業採択者からのご意見・ご要望への対応について

このたび、2022年度の拠点事業採択者から研究成果報告書を提出いただきましたが、当該報告書の最終頁に本拠点事業へのご意見、ご要望を記載いただきました。

年度初めのお忙しい中を、本研究所の共同利用・共同研究拠点活動に対し、貴重なご意見、ご要望をいただきまして、深くお礼申し上げます。

いただきましたご意見、ご要望はすべて所内で共有し、担当者には改善策や対応の可能性を探るよう徹底しております。直ちに対応可能な事項についてはすでに実施しております。予算・人手不足などの理由によりすぐには対応不可能な事項、対応するには検討に時間がかかる事項等もありますが、取り急ぎ、現時点での回答として下記のような資料の形でまとめさせていただき、ホームページ上で公開いたしました。

拠点事業採択者の皆様からいただきましたご意見、ご要望を基に、引き続き、大型設備やデータベースを含めた共同利用の推進に力を注ぐとともに、共同利用・共同研究拠点の在り方等について議論を深めていきたいと考えております。

今後とも、引き続き、ご協力を賜ることができれば幸甚に存じます。

■研究環境について

ご意見、ご要望など	回答、対応状況など
・共同研究で出張中にオンライン会議が入るような時もあるので、小さな会議室等をお借りできる仕組みがあると助かります。	本館1階教員室がご利用いただけます。 空室状況・ご使用につきましては受入研究室にご相談ください。
・NMR 測定を行う環境は文句無しであるが、ビジターのフリースペース(PCの充電なども簡易にできる)などあれば、便利かと思う。	本館1階談話室(lounge IPRe)がご利用いただけます。
・試料の状態をNMR測定前後で調べるために、小型分光器を持参して測定しました。不満では全くありませんが、同様の小型分光器とNMRチューブのまま吸収測定が可能なセルアダプターがあると、色素をもつタンパク質を測定する方は状態が確認出来て便利かもしれません。	小型分光器は、こちらでも装備しております。事前にご連絡いただければ、NMR室で測定できるよう準備いたします。セルアダプターにつきましては、多様なNMRチューブにも対応できるものがあるか調査・検討いたします。

■申請、出張、報告書等の事務手続き一般について

ご意見、ご要望など	回答、対応状況など
・～(略)～年度末に旅費の申請ができないことは制度上仕方のないことだと思います。～(略)～	年度末の来所でも旅費の申請をしていただけます。3月初旬までに予め来所日の確定とご連絡をお願いいたします。

■装置の状態や受け入れ教員の対応について

ご意見、ご要望など	回答、対応状況など
・～(略)～装置に関しては、利用した装置は順調に稼働していましたが、研究全体で使用する可能性のある装置の中には老朽化のため、更新が必要なものもあるようにお聞きしました。	弊所においても装置の更新の必要性については承知しているところです。高額な装置の導入は1つの大学や、研究所の希望で叶うものではありません。コミュニティの皆様からのご支援をよろしくお願い申し上げます。
・NMR装置はやや古いですが、世界最高性能が維持されています。ただし、19F-TROSYや多核並列測定などの最先端技術の一部が利用できませんので、可能であればNMR装置の更新をお願いいたします。	
・～(略)～わが国の溶液構造生物学分野の継続的发展のためにも、国内を代表とする機関として、蛋白研への最先端装置の導入が望まれています。	
・生物学において、特にインパクトの高い研究を目指す上で、統合的な戦略を取ることは重要です。特に、クライオ電顕や構造予測ツールの発展によって、生体分子の「カタチ」を見る技術が成熟する中、タンパク質の動きや弱い相互作用を高精度・高分解能で評価することができるNMR技術の重要性は増しています。一方で、NMR装置の高度化・大型化によって、装置価格は高騰し、研究室単位はもとより、部局単位、大学単位であったとしても導入は容易ではありません。このような状況において、蛋白研のような国内有数の共同利用機関における大型機器の運用、さらには世界最先端水準の機器への更新などが待ち望まれています。	

・～(略)～蛋白研のスタッフさんたちが忙しすぎて、手一杯になっているように感じる時が何度もあった。手厚いサポートは大変ありがたいが、スタッフへのサポートも必要ではないかと思った。	限られた予算での運営のため、スタッフ数も限られています。皆様へのサポートの質を保ちつつ、スタッフに過度な負担がかからないよう留意したいと思います。予算確保のため、コミュニティの皆様からの継続的なご支援をお願い致します。
・～(略)～我が国でもトップレベルのサービスだと思うが、対応できる研究所の人員が少ないのではないだろうか。	

■今後拠点として力を入れるべき分野、技術など

ご意見、ご要望など	回答、対応状況など
・オンラインでの講習やシンポジウムなどが開催されていますが、都合がつかず参加できないときもあるので、オンデマンドで残しておいて後からみられるようにしていただけると助かります。(NMR 事業)	過去の講習会やセミナーでの講演資料の一部はアーカイブとして保存しており、参加登録者を対象に公開しております。詳細は宮ノ入までお問い合わせください。
・NMR 拠点としての蛋白研の最大の特徴は、生体系 NMR を熟知したエキスパートの受け入れ教員が対応にあたってくれるために、特殊な、新規な NMR 実験にトライできることです。こういう雰囲気を今後もぜひ、維持、発展させていただけたらと思います。具体的には、生体系でのなるべく多くの測定核種への対応、高圧測定での対応をお願いいたします。	測定核種の拡大は、機器更新を要しますが、努力してまいります。高圧装置に関しましては自動ポンプの導入を予定しており、より多くの皆様に安全にご利用できるように整備してまいります。
・遠隔計測サービスの充実、特にオートサンプルチェンジャーの導入に期待します。	遠隔計測はすべての溶液 NMR 装置で利用可能です。400MHz, 600MHz の装置には、オートサンプラーを装備しておりますので、ご利用をご検討ください。

■その他自由記述

ご意見、ご要望など	回答、対応状況など
・創薬ターゲットは少なくとも 50%が GPCR である。しかし、構造解析が困難で治療薬の開発が遅れている。GPCR 関連の研究者との交流を希望する。	弊所の拠点事業として「蛋白質研究所セミナー」がございます。研究者の交流の場としてご利用ください。
・BL44XU でサンプルピンを手載せする際に、かなりの技量を要する。うまく装着できず、サンプルを多く失いました。改善策などございますでしょうか？	多軸ゴニオメータが非常に繊細なため、自動マウントロボット SPACE-II の利用を前提としております。手動でサンプルピンをマウントすることに苦勞されていることは承知しておりますが、対策は難しいため、ご理解頂きますようお願いいたします。
・蛋白研ビームラインでの結晶構造解析とクライオ電顕での単粒子構造解析を相補的に利用した研究をサポートいただけるような制度があると研究が進め易い様に思いました。	蛋白研は X 線結晶構造解析、NMR、クライオ電子顕微鏡の 3 つの構造解析技術を全て揃えた日本で唯一の研究機関です。日頃から担当者同士での情報共有を行い、それぞれの技術の相補的な利用をおこなっておりますので、お気軽に担当者にご相談ください。